

調査速報

タイ自動車市場月次統計（2017年11月）

18年の輸出台数は前年比横ばいを予想するが、内需拡大の継続が国内生産 200 万台超えを牽引する見通し

主任研究員

深尾 三四郎

045-225-2375

fukao@yokohama-ri.co.jp

要約

- 11月国内生産台数（季調値）は前月比9.8%増の211万台と反転増加。タイ国内の洪水の影響が一巡。
- 輸出、国内販売ともに季調値が前月比増加。消費マインドの改善が続き、今後も内需拡大は続く。
- 18年のタイ市場見通しを策定。輸出は17年比横ばいも、内需拡大が増産を牽引する見込み。

浜銀総研の18年タイ自動車市場見通しは国内販売 89 万台、輸出 113 万台、国内生産 202 万台

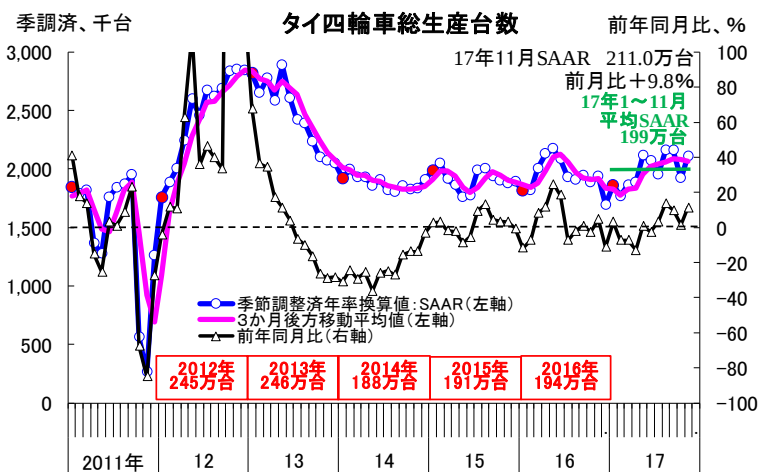
タイ工業連盟（Federation of Thai Industries: 以下、FTI）が発表した2017年11月の四輪車総生産台数は、前年同月比 11.5%増と5か月連続で前年超えし、季節調整済年率換算値（当社試算、以下 SAAR）も前月比 9.8%増の 211.0 万台と大きく増加した（図表1）。輸出と国内販売の SAAR もともに前月比で増加したが、10月に3週間に亘ってタイ国内で発生した豪雨に伴う大規模な洪水が製販を下押ししたため、その反動が増加の背景にあったと推察する。11月に入っても一部地域で洪水の影響が残っていたため、12月以降も回復効果が期待できる。

11月の総輸出台数は前年同月比 4.6%増と、3か月ぶりに前年割れした10月から反転増加し、SAAR も前月比 4.1%増の 115.1 万台と反発した（図表2）。もっとも、3か月後方移動平均値は7か月ぶりに減少しており、輸出台数は重い動きとなっている。主要仕向け地別の輸出台数の四半期推移（前年同期比）をみると、アジア向けは前年割れし、豪州・オセアニア向けの増勢は鈍化した。大手メーカーの乗用車モデルの生産の一部が ASEAN 他国に移管されたことが背景にある。もっとも、ここ1年あまり前年割れが続いていた中東向け輸出が漸く足元で水面上に頭を出してきている。18年の輸出需要は停滞するとみるが、タイ生産車の輸出回復は、高収益なピックアップトラックの主要輸出先でもある中東での需要が再浮上するかどうかにかかっていると看做すことも過言ではなく、同地域向けの輸出動向に要注目である（図表3）。

11月の国内販売台数は前年同月比 20.6%増と11か月連続の前年超えとなり、SAAR は前月比 4.9%増の 85.9 万台と増加した（図表4）。前述の洪水影響がストレートに10月の国内販売を直撃したが、その反動で11月の販売は増加したと考える。相次ぐ新モデルの市場投入と販促強化が続いている上に、消費者信頼感指数が上昇基調にあることもあって、国内販売は今後も底堅く推移する見通しである（図表5）。

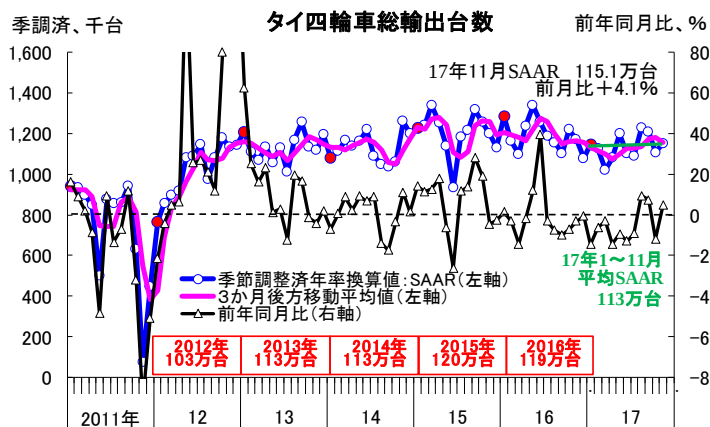
2017年の実績も残すところあと1か月となったが、浜銀総研はタイ自動車市場の見通しを、国内生産で17年が前年比 2.3%増の 199 万台、18年が同 1.5%増の 202 万台と設定した。輸出台数は17年が前年比 4.9%減の 113 万台、18年は 113 万台と横ばい予測とする一方、国内販売は17年が同 11.9%増の 86 万台、18年は同 3.5%増の 89 万台と2年連続の内需拡大を予想する。このことが18年の国内生産見通しが4年連続の前年超えと堅調に推移する背景にある（図表6）。

図表1 11月タイの自動車生産は増加



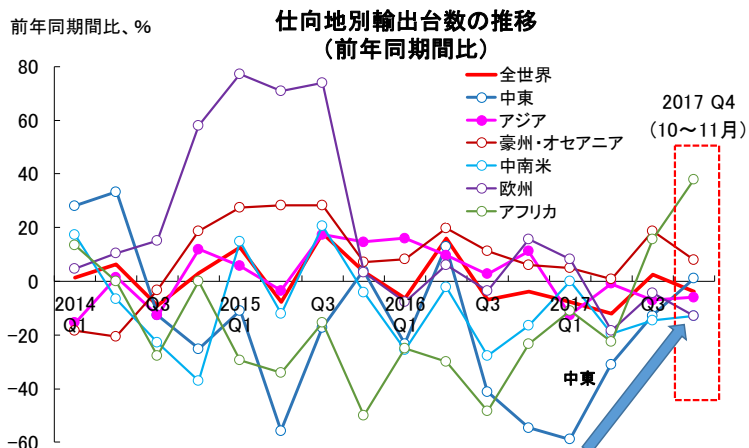
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表2 輸出台数（SAAR）が反転増加



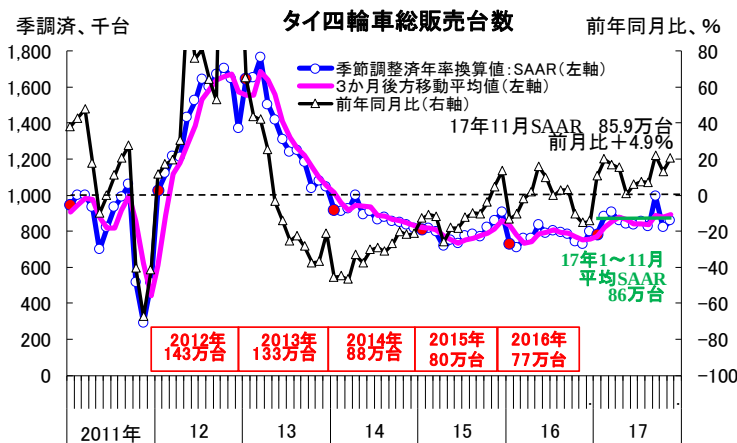
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表3 アジア向け輸出は減少も中東向けは回復



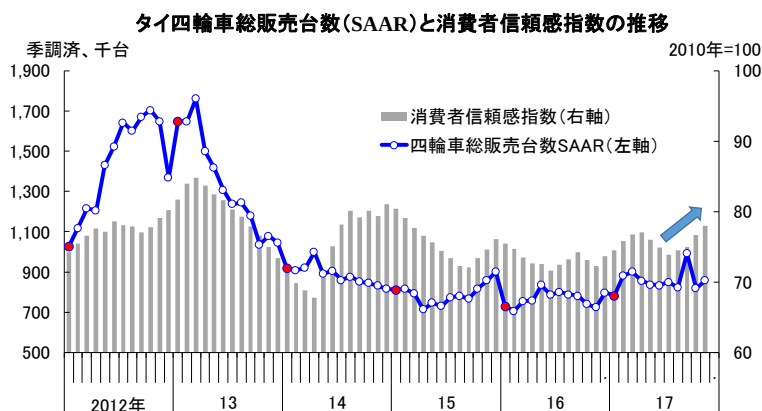
出所: Somboon Advance Technology社公表資料を基に浜銀総合研究所が作成

図表4 11月国内販売も増加



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

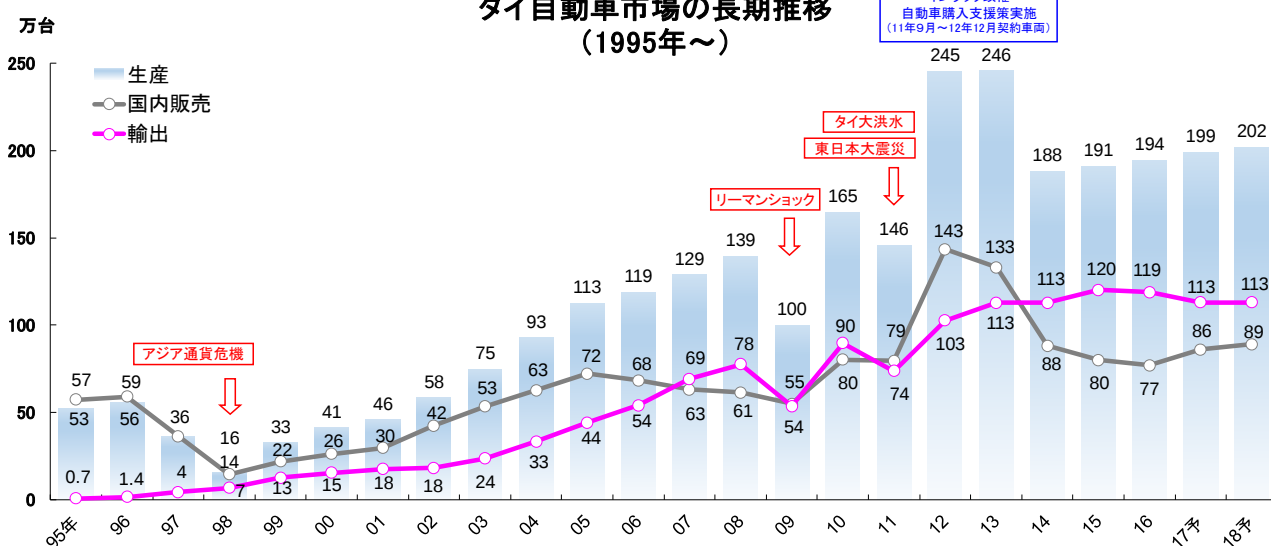
図表5 消費マインドは改善傾向が続いている



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: Federation of Thai Industries, University of the Thai Chamber of Commerceのデータを基に作成

図表6 2018年は内需拡大が国内生産 200 万台超えを後押しする見通し

タイ自動車市場の長期推移 (1995年～)



注: 2017年と2018年は浜銀総合研究所の予測。
出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。